
悪を名乗る転生者と正義を振りかざす転生者

天叢雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪を名乗る転生者と正義を振りかざす転生者

【Nコード】

N9642Z

【作者名】

天叢雲

【あらすじ】

親友だった男に裏切られ、全てを奪われて殺された。

転生したが、その先にも裏切った男が現れ、また小さくも大きな幸せを奪われた。

復讐をするのか、しないのか迷う裏切られた転生者は……。

悪を名乗る転生者が主人公で正義を振りかざす転生者が敵みたいな
感じですよ。

序章第一幕（前書き）

最近のテンプレ転生者と前世に殺された転生者が織り成す物語です。

テンプレ転生者が敵、殺された転生者が主人公になります。

序章第一幕

俺は全てを奪われた。

前世で親友だった男に裏切られ、殺された。

不憫に思ったカミサマが転生をさせてくれたが、俺が願ったのは
“何があっても裏切らない相棒が欲しい”。

二次小説お馴染みのチートな能力をもらって無双＋ハーレム作り
とかはしたくない。

カミサマに何度も聞かれたが、“何があっても裏切らない相棒”
しか欲しい特典はなかった。

力をもらうにしても、デメリットを消してまで手に入れたいとは思わない。

巷でテンプレチートと呼ばれる“無限の剣製”や“王の財宝”などの『Fate』の能力。

“写輪眼”やら“直死の魔眼”やら“複写眼”など魔眼を欲する転生者もいるだろう。

苦勞もせず力を手に入れば溺れるだろうから前世でも欲しいと願ったことはない。

だが、その物語のキャラクターとは会って話をしてみたいという欲望はある。

特に、絶望の崖っぷちで生きてきたキャラクターと話がしたい。どうしたら、あんなに真っ直ぐに生きれるのかとか、色々。

前世でどこを間違えたのか、俺は学校の嫌われ者になり、親友は学校の人気者になっていた。

最初は目立たない、普通の学生二人だったのにどうしてこうなったのだろうか……。

殺される寸前、親友だった奴は最後にこう言った。

『俺が更に人気者になるために死んでくれ。親友だろ？』

……だから俺はカミサマに特別に転生する権利を与えられたのだ。

特典については、“何があっても裏切らない相棒”だけで終わらせ、カミサマと別れた。

渋々、といった感じのカミサマは新しい生を与えてくれ、俺は二次小説お馴染みの……。

“魔法少女リリカルなのは”の世界に転生することになった。

・・・すまんカミサマ。俺は普通の世界にしてくれて言ったはずだぞ？

なんで魔法とかファンタジーな世界なわけ？

魔砲少女が蔓延る世界で生きろって？関わらないようにするにはするが無理じゃね？

転生した俺は赤ん坊スタートという羞恥プレイをしなくて済んだことにまず感謝した。

見た目は幼稚園児くらいだろうか？黒髪黒目の日本人特有の容姿で少しカッコいい程度のルックスである。

誰かに拾われて・・・みたいな展開にはならず、捨て子として判断された俺は施設に送られた。

二次小説では原作キャラの父親や母親に拾われるみたいなのはあるが、普通はない。

むしろ違和感だらけでカミサマが介入したのか？と思う。

施設では特にトラブルなどはなく、年上とも年下とも仲良く暮らすことができた。

カミサマの特典の“何があっても裏切らない相棒”はカミサマ側の不手際でまだ時間がかかるようだ。

お詫びに東方projectのスペルカードを全部送ってきた。

・・・あ、いや。魔力とか妖力ないんだけど俺・・・。
確定。あのカミサマはあかいあくま並のうっかりスキルがあるんだろうよ。

魔力、ねえ・・・俺にもあるのかな？

普通の世界に行きたいと言ったが、やはり魔法は使ってみたい
と思っている。

・・・んー、誰か引き取ってくれる人が現れるまでのんびりと過
ごそうかな？

序章第一幕（後書き）

まだ裏切った男が転生するのは知りません。

序章第二幕（前書き）

何故だ。ふと浮かんだはずなのにスラスラ進むぞ。

序章第二幕

俺が施設に預けられてから二年。
時間は飛んだが気にしない。

幼稚園児だった俺は小学生になり、施設ではお兄さん扱いにされている。

通っている小学校は“聖祥学園男子校”である。

・・・うーむ。魔砲少女が通う小学校の横にあるみたいなんだが、助かったな。

二次小説じゃ、同じクラスになったりとかするが、この世界では男子校と女子校に別れるようで助かった。

そして引き取り云々のことだが、同年代のほとんどは誰かに引き取られていった。

ま。俺も誘われたのだが、別の子を推薦して施設に残ったりしている。

いい人か悪い人かは前世の経験でわかるから、親の愛を知らない子に味合わせて上げよう。ってのもあるけど。

だからか、施設の職員には“大人びた子供”という印象を持たれている。

たまに手伝いとかしているからか、職員とは良好な関係を築けている。

で。カミサマからお詫びに送られたスペカだがまっつつつたく役に立たん。

妖力、神力、靈力もない俺に大妖怪や巫女とかのスペカをどう使えと？

あのカミサマ、まさか遊んでんじゃねえよな？

何はともあれ、俺は第二の人生を満喫している。

・・・不満を言えば高校生なのに小学生をやるとか嫌だけど。

精神年齢が違うから付き合いにくいなのって。

そして、第二の人生の名前もいつの間にか決まっていた。

西行寺雄志。どうやら手紙に書かれていたらしい。

・・・嫌な予感がするのは気のせいかな？

脳裏にぼやぼやした冥界のあの人が振り返る姿が浮かんできた。

隣には半人半霊の付き人が疲れたような顔をして・・・げふん。
どうやら昼から夢を見てるようだ。うん。

ま。気にしないでゆったりと昼寝をしますかね・・・。

なんだこれは。

目が覚めた、いや、無理矢理覚まされたというべきか。
そんな風に思ってしまった俺は現実が受け止められないといった
感じに呆然としていた。

まず目に入っただのは赤と黒。

もうもつと立ち込める黒い煙と赤い液体がこびりつく施設・・・
いや、施設だった場所であつた。

いつの間にか外に出ており、異臭に顔を歪ませながら立ち上がる
うとすると腹に違和感を感じた。

「う、嘘だろおい・・・」

手を触れてみると、そこには施設を支えていたであろう、小さな鉄骨が腹を貫通していた。

それを見ると、口から血が溢れ出し、痛みが遅れてやってきた。

なんだ。なんだこれは！　いつたい何が、何が起きたんだ！

腹に刺さる鉄骨に触れながら痛みに耐えていると、どんどん意識が無くなるのを感じた。

血がどんどん流れ出し、鉄骨に伝っていくが、止められずにまた血を吐き出した。

・・・畜生・・・俺が、俺達が何かをしたのかよ・・・。
なんで・・・新しい人生を歩み始めたのにこんな目に・・・。

「いた！　こっちにいたわよ！」

「■■■！　早く治療をしないと！」

「わかってる！　わかる？　わかるかしら！？　返事をして！」

ペシペシと頬を叩かれるのを感じたが、それよりも急速に意識が闇に沈んでいくのが早かった・・・。

力が抜けるのを感じると、頬を叩いていた誰かは慌てたように叫んでいた。

序章第二幕（後書き）

次回からは無印・・・かも。

無印とエースはパパッとやって空白期から進めたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9642z/>

悪を名乗る転生者と正義を振りかざす転生者

2011年12月30日12時48分発行